Google for Education

リーディング DX スクールとして長崎市内の Google for Education 活用をリードする小榊小学校の取組に注目

長崎港の西側に位置する長崎市立小榊小学校は、児童数が約 700 人と市内でも大規模な学校です。新興住宅地の団地内にあり、児童数は増加傾向にあります。2016 年に移築された校舎の教室からは海を望むことができ、景色の良さも自慢です。同校は 2021 年度からの Google for Education 本格導入以降、教育 ICT を積極活用する取組みで市内の小中学校をリードしてきました。その道のりと生み出した成果をクローズアップします。

長崎市立小榊小学校

長崎県長崎市みなと坂 1 丁目 35 - 6
https://www.nagasaki-city.ed.jp/kosakaki-e/

もともとは 1884 年に淵小学校の分校の形で創立され、1955 年元日に旧神ノ島小学校と旧小榊小学校の合併で開校した。2001 年に立神小学校を統合し、現在の小榊小学校となった。長崎市中心部から車で 30 分ほどの風光明媚なエリアに校舎を構える。学校教育目標は「自ら考え協働する、心豊かで粘り強い子どもの育成」児童数は 701 名と市内では規模が大きく、教員も 50 人を数える。

Chromebook 649 台

01

積極的な情報共有で教員間のスキルの差を埋め ICT 活用を広げる

小榊小学校の学校教育目標は "自ら考え協働する、心豊かで粘り強い子どもの育成"。

「校長はよく "いい顔 いい声 いい心" の子どもたちを育てましょうと呼びかけています。そして、子どもたちがのびのび生き生きと生活できるように、教職員が協力して育てていこうという温かい雰囲気に満ちた学校です」と、6 年担任で研究主任の吉野美佑氏が話します。

長崎県では GIGA スクール構想に沿った 1 人 1 台端末を、県教育委員会の主導により県全体で共同調達する方針としました。各市町の教育委員会担当者を集めて OS の検討会を行った結果、2020 年に ChromeOS を県の推奨として選定しています。これを受けて、長崎市でも 2020 年度中に全小中学校へ Chromebook を整備しました。長崎市教育委員会 長崎市教育研究所主任指導主事の植田正志氏は、「Chromebook 及び Google Workspace for Education（以下、Google Workspace）は協働的な学び

長崎市立小榊小学校

教諭・研究主任
吉野 美佑 氏

長崎市教育委員会
長崎市教育研究所

主任指導主事
植田 正志 氏

に活かせること、Google 管理コンソールでしっかり管理でき、セキュリティも高いことなどを総合的に評価し、Google for Education を選びました」と経緯を説明します。

小榊小学校では 2021 年 1 月、全児童に Chromebook を配布しました。それまで同校には 1 学級分の他社製タブレット端末が備えられていましたが、積極的な活用が難しい状況でした。2021 年度からの Google for Education 導入当初は、Google Workspace の多くのアプリを授業でどう活用していくか、また教員間の ICT スキルの差が授業内容や児童たちへ影響しないか、といったことを課題に感じていたといいます。

一方で、「事前の研修で Google Workspace に触れたとき、共同編集ができたり、クラウドで情報管理できたりする点にびっくりしたことを覚えています」と吉野氏は振り返ります。同校は比較的若手教員が多く、インターネットで自ら調べ、授業での活用アイデアを他の教員と積極的に共有するなど ICT スキルの差を埋める動きが進みました。おかげでどの教員も基本的な使い方はほぼ習得し、1 日に 1 回は授業や業務で使用するようになっていきました。

導入時は Chromebook と Google Workspace を使う上でのルール作りも課題でした。「最初はやはり初めての 1 人 1 台端末ということで、授業中に教諭が指示したときのみ使う、休み時間は使ってはいけない、といった厳しいルールを定めていました。となると当然従わない子どもも出てくるわけですが、私からすれば本当はもっと自由に使わせてあげたいのに…とジレンマも感じていました」（吉野氏）

そこである程度の期間が経過してからは、「係活動で休み時間に使いたい」、「友達と Chromebook で共同編集しながら何か作りたい」などの児童からのリクエストに応え、授業以外でも教員の指導のもとで自由に使えるようにしました。さらに本格導入から 2 年が経過したいま、2023 年度の 2 学期からは児童たち自らルール作りができるよう方針を変更する予定です。「教員が想像していた以上に子どもたちはいろいろな使い方を提案してくるので、可能性がさらに広がっていくと感じています」と語ります。

02

共同編集や個別最適な利用によって学習意欲向上につながる

新型コロナウイルス感染症の影響がまだ大きかった頃は集合形式による集会などが難しかったため、Google Classroom で全校向けや学級向けの連絡を行うようになりました。Google Classroom は授業でも活用する教員が多く、吉野氏も Google Classroom で課題を出したり、児童からのコメントを集約したりと、現在でも情報共有のために積極的に活用しています。

Google Workspace のその他のアプリについて研修を重ねたり、他校の実践を見たりする中で多彩な活用方法があることがわかり、子どもたちに身に付けてほしい資質･能力の目標に即し、それぞれの授業での適切な使い方を検討しています。現時点では教科を問わず Google スライドをノートとして活用し、授業ごとに内容をスクリーン キャプチャして貼り付けるなど学びの蓄積にも役立てています。この使い方をミニ研修会などの場で伝えたことで、他の教員にも活用の輪が広がりました。

また、国語や社会、算数では Google Jamboard を使うことが多いといいます。長々と文章を書かずとも要点だけを付箋に書き込み、図形を動かして考えをまとめたり、矢印を付けて関係性を

見つけたり、といった形でよく利用しています。Google スライドや Google Jamboard は図工で完成した作品を貼ってもらい、それについて児童がコメントを付け合うなど、共同編集の機能もよく活用しています。

体育では Google フォームのアンケート機能を利用し、例えばマット運動の様子を動画に撮り、その動画を提出させるという使い方もしています。

いままでは実技テストという形で時間をとり、子どもたちは時間内にうまくできなければならなかったものが、時間の制限なく "うまくいったときの動画" を送れるようにしたことで気楽に取り組めるようになったといいます。

Chromebook と Google Workspace の活用を通じ、児童がさらに学習に意欲的に取り組むようにもなりました。「クラスには 1 時間を通して授業に集中できない子、黒板に書かれた内容をノートに書き写すのが苦手な子など、さまざまな特性をもつ子がいます。教諭の話を集中して聞けない子は動画教材を見せることで学習が進んだり、ノートに書けない子でもタイピングは上手でいろいろ発言するようになったりと、それぞれの特性に合う個別最適化が可能になったことで、意欲的な学習につながっているのだと思います」（吉野氏）

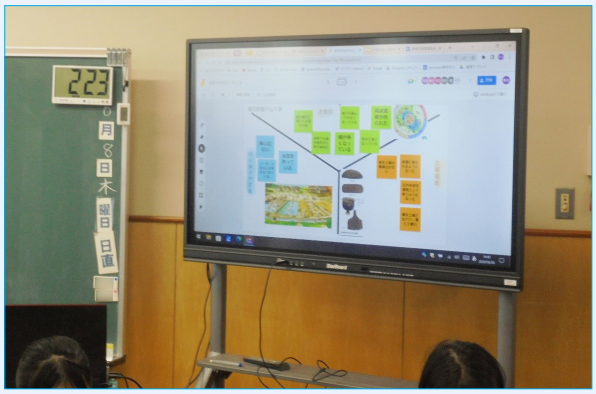
Google for Education の活用で基礎学力が上がったかどうかについては、まだ明確な数値は出ていませんが、対話力やプレゼンテーション力の高まりを強く感じているといいます。「これまでの一斉授業では挙手できなかった子も発言できるようになり、子どもたちが考えていることがいろいろとわかるようになりました。また、共同編集機能を使うと友達の考えを自由に見ることができるので、ほかの人の考えを参照しながら自分の学びを深められるようになったのは、個別支援の観点からもありがたさを実感しています」（吉野氏）

03

ペーパーレス化に加えて
教員の業務改善にも効果を発揮

Chromebook と Google Workspace を授業で使うようになってから資料の印刷が減り、ペーパーレス化も進んでいます。「私の場合は、いま授業で使う紙はほぼゼロに近い状況です。授業では紙のプリントを使う教員もまだかなりいますが、子どもや保護者向けのアンケートは全校的に Google フォームに移行しているので、ペーパーレス化自体はかなり進んでいると思います」と、吉野氏が現状を教えてくれました。

また授業以外でも、指導案や学級通信を書くとき Google ドキュメントを使うようになりました。ファイルをクラウドで管理し、USB メモリを使用せずとも作成中のデータに自宅からアクセスできます。「Google がセキュリティをしっかり確保してくれるため、校外からも安心して使えるのはとても大きなメリットですね」とその意義を高く評価しています。



教員数が 50 人と多く、これまでは職員室でも近くにいる教員としかコミュニケーションを取りにくかったのですが、いまは有益な Web サイト情報などを Google Classroom に気軽に貼り付けてくれる教員が増え、情報共有の幅がとても広がりました。「私としては授業がこれまで以上に楽しくなり、新しい使い方を知ったときはとてもワクワク感があります。子どもたちも楽しそうに学習に取り組み、成長する姿を見せてくれるので、働きがいを実感しています」と、吉野氏はここまでを振り返ります。ただし、すべてをデジタルのみに頼ることには懸念も感じています。「顔と顔を合わせてコミュニケーションをとることはやはり大切なので、子どもたちがデジタルツールの中だけにハマり込まないようにすることも必要でしょう。例えば、Chromebook のおかげで発言できるようになった子については、これからは実際に声に出して対話できるようになってほしいと考えています」（吉野氏）

04

長崎市の教育 ICT 推進に向けた情報発信の役割に高い期待

小榊小学校は長崎市から FGS（フロンティア･ギガ･スクール）校に指定され、2021 年度からの 2 年間研究を進め、市内の全教員共有の Google ドライブで様々な情報発信を行ってきました。2023 年度からは、文部科学省と長崎市からリーディング DX スクールの指定を受け、他校が参考にできる ICT 活用方法の研究を進めているところです。市教育研究所の植田氏は「Google のツールをいかに活用していくかという部分でこれまで市内をリードしてもらいました。今後も積極的に情報発信してほしいですね」と期待を寄せます。

同校では子どもたちの父親らが中心となって、学校関連の困りごとや相談ごとを保護者同士で自発的にサポートをし合う「FGS 応援隊」を立ち上げました。Chromebook と Google Workspace を導入したばかりの頃、保護者から学校へ多数の初歩的な質問の電話がかかり、教員は対応に苦慮していましたが、FGS 応援隊が相談フォームを作成し、質問への回答までしてくれたため、教員は大いに助かったといいます。植田氏はこの取組みについても「やはり身近な人に聞くほうがハードルは低いので、保護者の自発的なサポーター組織は本当にありがたい存在だと感じています」と高く評価しています。

「GIGA スクールとしての土台は整ってきたので、次はリーディング DX スクールとして、学び方を自ら選び、学び続けていける子どもたちを育て、他校にもその輪を広げていきたいと考えています」と、吉野氏は今後の目標を語ってくれました。Google のツールが、小榊小学校の取組みをこれからもサポートしていきます。

取材日: 2023 年 8 月 2 日

Google for Education

いつでも、どこでも、予算に応じて使える教育テクノロジーソリューションです。

Google for Education の特徴
- 簡単操作
- 手ごろな価格
- 高い汎用性
- 高い効果

1 chromebook
教育向けに設計され、授業向けに開発された軽量で耐久性の高い共有可能なノートパソコン

2 Google Classroom
教師と児童生徒向けに構築された学習プラットフォーム

3 Google Workspace for Education
時間や場所を問わず学校全体で共同利用できるクラウド型教育プラット フォーム

4 Chrome Education Upgrade
1 つの端末から同じドメインのすべての Chromebook を設定
シンプルなクラウド型管理コンソール

お問い合わせ事務局 0120-905-860（平日 9:00-18:00） gfe-jp-isr@google.com

Google for Education の詳細については、右記 URL、もしくは QR コードからアクセスしていただくか、同ページ「お問い合わせ」よりお問い合わせください。
© Copyright 2023 Google
Google for Education、Chromebook、ChromeOS、Google Jamboard、Google スライド、Google ドキュメントは、Google LLC の商標です。その他すべての社名および製品名は、それぞれ該当する企業の商標である可能性があります。

お問い合わせはこちらから
https://g.co/edu